

災害への備え

クリークを活用した洪水調節(先行排水)の取組 佐賀県(佐賀平野、白石平野)

【取組内容】

国営筑後川下流土地改良事業や関連の県営事業において整備されたクリークは、かんがい期の農業用水確保はもちろんのこと、大雨時には一時的に貯留する機能を持ち、平野部におけるダム役割を果たしている。

さらに、豪雨前に農業用水路(クリーク)の先行排水を行い、空き容量を確保することにより洪水調節機能を発揮している。

【取組に至った経緯】

近年の気候変動に伴い激甚化・頻発化する豪雨に対して浸水被害を軽減するため、平野全域でのさらなる減災対策の取組が必要となっている。

【取組む際に生じた課題と対応】

先行排水の時期や放流量の判断は地元のゲート操作人の経験に基づく感覚的なものに依存しており、より効果的、効率的な操作運用の確立が必要である。また、先行排水した後、想定した降雨がなく農業用水が不足する場合、迅速な用水補給に向けた検討調整も必要である。

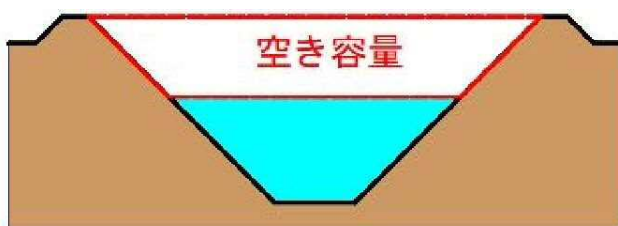
【取組の成果】

佐賀・白石両平野ではクリークの総延長が約1,600km以上あり、洪水調節のための空き容量(田面下1m)は、約1,600万 m^3 で佐賀県の北山ダム(貯水量2,200万 m^3)の約7割に相当する。

佐賀市、神埼市、白石町など県内3市5町の地域でクリークの先行排水に取組まれている。

【今後の展望】

クリークの先行排水を円滑に実施するために実施体制や操作運用の検討を行い、試行的に運用していく中でより効果的・効率的な操作運用の確立を図る。



佐賀市の先行排水取組事例(佐賀市川副町)

【問合せ先】九州農政局農村振興部洪水調節機能強化対策官 TEL 096-211-9111 (内線4761)